

令和7年度 学校評価書 (計画段階(実施段階))

特8

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の個性を尊重し、可能性を最大限に引き出す教育活動の実践 ・個別最適な学び、協働的な学びを重視した授業とカリキュラム・マネジメントの推進 ・完全に通じ合う環境の保障による、全職員・生徒の主体的参加の促進と当事者意識の高揚 ・時代の変化に応じた教育活動及び業務改善(働き方改革)の推進 			B	B	A : 適切である
今年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		B : 概ね適切である			
今年度は、進学・就職ともに生徒の希望進路を概ね実現することができた。特に、課外等を実施するなど大学等への進学希望者増加への対応を充実させ、その成果も出すことができた。また、ICT機器の活用状況も更に向上し、個別最適な学びにつなげることができた。	基礎学力の定着と主体的学習態度の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 自ら課題を見つけ解決に取り組む活動(課題解決学習)を導入した授業を展開する。 ② 基礎・基本の定着を図るための目標設定と学習内容の精選を図る。 ③ 集団の納得解を導き出す「協働的な学び」による、総合的な探究の時間を充実させる。 ④ 生徒の実態や進路希望に応じた指導を行う。 ⑤ 日常的なICT活用により個別最適な学びを実践するとともに、新学習指導要領に基づく指導と学習評価を行う。 		C : やや適切である			
次年度は、教職員の聴覚障がい教育に関する専門性を更に高める校内研修を充実させるとともに、多様化する生徒の希望進路への対応力向上、発達障がいに関する専門性向上等が課題である。	豊かな人間性と生きる力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の心を育む発達支援の生徒指導によるHR経営・学年経営を推進する。 ② 規範意識及び危機管理・健康管理能力を身に付け、自己教育力を高める指導を行う。 ③ 生徒が主体的に運営する学校行事、生徒会活動、部活動等の指導を推進する。 ④ SC、家庭、寄宿舎等との連携による生徒の心身の健康状態の早期把握と組織的な対応を図る。 		D : 不適切である			
	望ましい勤労観・職業観の育成と個に応じた指導・支援の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 就労後の姿を描き、卒業までの見通しを持たせる進路指導を1年次から行う。 ② 学校生活や行事と関連付けられた進路ノートの活用を図る。 ③ 自己の障がいや学力等の実態を客観的に理解し、困難を克服する方法を考え、実践する自立活動等の指導を推進する。 ④ 聴覚障がいや発達障がい等の理解、生徒指導、教科指導、授業づくりに係る職員研修とテーマ研究を行う。 					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題			
学習指導 (学習指導課)	「主体的・対話的で深い学び」につながる学習指導の推進	基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指す授業作りを推進する。 教科間で授業内容の共有、指導の連携ができるように連絡ツールの活用を推進する。 通じ合う環境を整えるために、音声認識アプリやICTの活用を推進する。	B C A	B	①教科横断的な指導や評価方法について協議する教科会を設け、研修課と協力して学校全体の取組として進めること。 ②ICT活用に関するルールやマナーの啓発活動に取り組むこと。 ③業務が偏らないような業務分担の計画を立て、担当者同士で協力し合えるような組織づくりをすること。 ④各学級に協力を呼びかけ、毎週出席簿の点検を行うなどして、校務支援システムを円滑に運営すること。	B	・「個別最適な学び」に係る評価項目を充実していただきたい。
	学習評価の円滑な実施に向けた取組の推進	教科内で観点別評価について共通認識を持てるようにする。 生徒による授業評価を学期毎に実施し、授業改善や教師同士の情報共有に活用する。 学習指導要領に基づく指導や学習評価につながる研修等への参加を推進する。	B B C				
	生涯学習につながる読書活動の推進	コンピューターによる蔵書管理を運用して、図書分類記号を適切に割り振る。 図書委員会の活性化を図り、生徒が利用しやすい図書館作りをする。 図書便りの発行や県立図書館等との連携を推進する。	B B C				
特色ある広報校づくり (広報課)	開かれた学校づくり	第1学年の学校間交流において、生徒が主体的に交流できるよう事前準備をする。 地域行事に参加するなどして交流を図り、地域の方々に本校の特色を知ってもらう。 地域貢献活動を通して、生徒一人一人に地域の一員としての自覚を持たせる。	A B B	B	①広報活動の活性化 学校HP掲載方法に関する研修会を実施し、全職員で広報活動に取り組むこと。 ②PTA活動のスリム化 PTA会員数の減少に合わせ、役員体制と業務内容を見直すこと。 ③開かれた学校としての役割 地域貢献活動の実施時期や方法等を関係部署間で検討するとともに、学校間交流については実施時期および内容の再検討を行うこと。	A	・学校周辺の清掃活動など、引き続き地域との交流の機会を増やしていただきたい。 ・生徒数が減少傾向であることから、広報活動を充実させていただきたい。
	広報活動の推進	インスタグラムを計画的に投稿し、本校の魅力を積極的に発信する。 HP更新マニュアルを各学年等のHP担当者に周知し、行事の投稿を円滑に行う。 次年度以降に予定している学校パンフレット作成の準備を進める。	B A A				
	PTA、同窓会活動の円滑な運営	PTA新聞をデジタル化し、業務を簡略化する。 PTA役員との連携を図り、参加しやすいPTA活動の実施に努める。 卒業後も母校や同窓生とのつながりを意識できるよう、同窓会の存在意義等を説明する。	A B A				
生徒指導 (学校生活課)	学校生活に関する情報共有・共通理解	年度初めや季節の変わり目等に職員への校則の周知を行う。 生徒指導等の指導方針の情報共有を各学年で行う。	B B	B	①学年を越えた課題に対応するため、学校全体で情報共有を徹底し、組織的な指導体制を構築すること。 ②スマートフォンの使用について、「学習環境」「安全面」「社会参加」の視点で、学年と生徒指導部が協働して指導の内容や方法の改善を図ること。 ③部活動について、既存部活動の再編や柔軟な活動形態を構築すること。 ④寮部が効果的に運営できるように、学校生活課の業務と明確に区別すること。	B	・「家庭や保護者の理解や協力」、あるいは「学校と家庭の連携」に係る評価項目を設けていただきたい。 ・生徒向けに、SNSやリスクマネジメントに関する研修を充実させていただきたい。
	生徒会活動の充実	生徒職員の負担軽減や行事の充実を図れるよう、業務分担、行事及び内容の精選を行う。 生徒会役員が見通しをもって行動できるよう、事前事後指導を行う。 部活動生が充実した時間を過ごせるよう、部活動間での交流・練習を促す。	B B B				
	安全教育の充実	学校内外でのスマートフォンの使用方法について生徒会を中心として協議し、改善を図る。 緊急時に確実に対応できるように、学期初めに各教室のインターホンのチェックを行う。 生徒の危機管理意識を高めるため、時事問題や季節に応じた危険回避情報の発信を行う。	B A B				
健康安全 (健康安全課)	心と体の健康に関する指導・支援	生徒自身が健康管理の意識を高めるよう啓発・指導をする。 スクールカウンセラーを計画的に活用するなど、こころの健康相談を効果的に実施する。	A A	A	①心身の健康、食、美化活動において、各係が計画に沿った取組を継続していくこと。 ②保健委員会も美化委員会も、学校をサポートする役割を継続すること。 ③手洗い等の感染症予防の基本的な習慣を啓発して、生徒の自己管理につなげていくこと。 ④心身の健康、文化、感謝の気持ちなど、食に関する啓発を行うこと。	A	・特になし。
	食に関する指導・支援	食物アレルギー等の健康に関する注意事項を徹底し、事故を防止する。 給食のマナーの啓発や指導を通して、食に関する社会性を涵養する。 保健委員会活動や掲示物、その他の取組を通して食に関する啓発活動を行う。	A A B				
	美化活動の推進と校内安全の推進	学校美化を適切に進め、清掃点検や掃除道具の点検を美化委員会活動として実施する。 校内安全点検は質を高めながら年間2回実施し、学校での生徒・教職員の事故を防止する。	A A				
			A				

キャリア教育	望ましい勤労観・職業観、社会人基礎力の育成	行事・学期毎に進路ノートに記入させるなどして生徒の自己理解を深めさせる。 模試や適性検査の結果を進路ノートにまとめ、自分を客観的に把握する材料とさせる。 生徒が主体的に課題を設定し解決に取り組みよう、学年集会等で意識付ける。	A B B	B	B	①【「振り返り」の深化】生徒自らが成長を可視化できる仕組み(ポートフォリオ化)を構築すること。 ②【外部模試の有効活用と指導連携の強化】クラス単位での指導を容易にし、学習の動機づけに繋がる指導体制を整えること。 ③【業務の標準化と偏りの見直し】業務マニュアルを作成し、特に新任者へのサポート体制を整えること。 ④【総合的な探究の時間」とビルドアップの再構築】教務部と連携しながら、双方の領域を明確にし、単位数や内容をブラッシュアップしていくこと。
	多様な学習機会の提供	デジタルサイネージ等を活用して、進路情報に触れる機会を多くする。 生徒が様々な生き方等を学べるよう、ビルドアップ・ウィークの学習内容を充実させる。 就業体験の事前指導から事後指導までを、学年と密に連携して指導を行う。	A A B	A		
	個別最適なキャリア形成支援	生徒の適性や希望に応じた進路実現を支援できるよう、生徒の相談に対応する。 卒業学年では、履歴書作成や面接の指導等を学年と協力して行う。 積極的に模試を受験するように促し、その結果を自己理解に役立てる。	B A B	B		
専(門性修)向課上	専門性向上のための校内研修の充実と情報提供	校外研修会等は資料を回覧したり報告会を実施したりして校内に還元する。 研修会や図書案内を積極的に行い、図書は閲覧できる場所を設ける。 教育実習では教科指導教員と連携し、計画的な実習ができるようにする。	A B B	B	B	①大学生の教育実習等については、時期や内容について関係する学年や教科と協議して見直し、効果的な実習を計画すること。 ②個別的教育支援計画の記入例、個別の移行支援計画の模式などを整え、提案すること。 ③学校教育研究について、職員のニーズや現代の教育課題も踏まえたテーマで計画を立てるとともに、相互授業参観や初任者の研究授業などを充実させ、授業の質向上の取組を継続すること。
	本校生徒・保護者及び外部の聴覚障がい生徒の支援	関係機関と連携し、充実した聴覚障がい学生セミナーを実施する。 個別的教育支援計画、移行支援計画の書き方や様式の提案をする。 外部専門家活用で得られた内容・助言等を学年会等で共有する。	A C B	B		
	学校教育研究1年目の取り組みと授業づくり	学校教育研究のテーマを検討し、研究の計画を全職員に周知する。 校内の相互授業参観をより充実させ、授業改善につなげる。 授業実践事例を集め、情報共有できるシステムづくりを行う。	B B C	B		
本科1年	学習習慣の確立 基礎学力の定着	学習習慣の定着に向け、週1回の漢字テストや週末課題を実施する。 見直しを持って学習に取り組むため、考査毎に目標と計画を立てさせる。 各教科担当と情報共有を行い、個に応じた指導を行う。	B B B	B	B	①遅刻や欠席が目立つ生徒については、登校や学校生活の意義を再確認させ、SC・学年・保護者・寄宿舎の役割分担を明確にし、継続的に支援すること。 ②課題の提出や期限遵守については、繰り返しの声かけだけでなく、達成体験を積ませるなどして、生徒自身が主体的に取り組むように手だてを講ずること。 ③類型に応じた学習内容・学習量を明確にし、生徒の進学・就職を見据えた進路意識を高めるとともに、自己決定を尊重しながら、学習方法の指導も含めて生徒の主体的な進路実現に向けた活動を増やすこと。
	基本的な生活習慣の確立 社会性の育成	心身の健康状態の把握をし、安心した学校生活を送れるようにする。 手帳やメモの活用を奨励し、生徒一人一人の自己管理能力の向上に努める。 自分の状況を適切に他者に説明するなど、適切な対応が取れるように指導する。 礼儀正しい挨拶と元気の良い返事ができるよう全体指導と声掛けを行う。	B B B B	B		
	進路意識の育成	適性検査や模試の結果を踏まえた個人面談を通して、適切な進路選択を促す。 進路的行事への主体的な取組を促し、進路意識を向上させる。	A B	B		
本科2年	学習習慣の確立 基礎学力の向上	朝のSHR前の「5分間活動」で、自ら課題を見つけて探究できるように指導する。 全ての生徒が模試や資格試験、検定試験に意欲的に取り組めるようにする。 基礎学力の向上を図るために、個ではなく集団での協調体制を築く。	B B B	B	B	①最上級生になる自覚と責任感を育むための生徒指導に取り組むとともに、学年所属教員が共通認識をもって指導に当たるようにすること。 ②朝の5分間活動については、進路実現やリーダーとして下級生を引っ張っていく立場であることを踏まえて、内容等を含めて再検討していくこと。 ③卒業後の生活に向けて、社会人としての基本的な資質向上を目的とした指導を行うとともに、様々な立場からの講話等を取り入れることで進路実現に向けた意識の向上を図ること。
	社会性の育成	生徒が主体となって学年行事の運営を行い、最上級生に向けて自覚と責任感を育む。 「自分のことは自分でする」ことを徹底的に行い、自己管理能力の向上を図る。 生徒による議論や振り返り等を通じて、マナーや社会性を学習する場を設ける。	B B B	B		
	進路意識の育成 (キャリア発達)	生涯学習を含めた内容で卒業生による講話を学年独自で実施する。 予備校で模試を受けることで、大学入試に向けて自ら取り組む姿勢を作る。(A類型) 面談等で進路目標を明確にし、それに向けて取り組む体制を作る。(B類型・基礎技能コース)	C A B	B		
本科3年	類型に応じた学力の定着	日本語文法の基礎が身につくよう、クラス日誌等を通して指導する。 週1回の漢字テストと類型に応じた週末課題を実施する。 HR活動で考査に向けた目標と計画を立てさせる。	A B B	B	B	①1年次より具体的なスケジュール管理方法や学習習慣の定着を学年全体で徹底し、土台を構築すること。 ②進路決定に向けて、自己分析や模試の振り返りなどを行ったり、必要な情報を集めて自分で判断したりする主体性を組織的に育てること。 ③週末課題は早期に教科間で系統的に計画を立て、意欲を維持できる学習環境を構築すること。 ④年度当初から情報共有と役割分担を明確にすることで、特定教員に負担を集中させずに、全員で全生徒を支える体制を確立すること。
	社会性や豊かな人間性の育成	最高学年としての自覚を持って行動させるため、学年集会等で意識付けする。 自己管理能力を高めるため、スケジュール手帳を活用させる。 他者を慮る思考の醸成のため、HR活動を中心に指導を行う。	A B B	B		
	望ましい勤労観・職業観の育成	実態に応じた進路が実現できるよう、面談をするなどして保護者との連携を密にする。 進路意識を高めるため、学年やクラスで定期的なキャリア指導を行う。 障がい認識を深めるため、効果的な自立活動の指導を行う。	A A B	A		
専攻科	学習習慣の定着と専門性の向上	レポート形式の自由課題と個人日誌の記入を毎日実施する。 基礎学力や進路、資格につながる内容の課題を実施する。 専門知識と技術を高めるため、各種検定試験の上位級取得を目指す。	A C A	B	B	①自由課題(自主トレ)は、基礎学力や進路に関する課題を計画的に実施すること。 ②生徒が自ら情報を得る、発信する、確認をする、提案をするなど、主体的に行動する力をつけること。 ③働くことの意義を理解させるとともに、日常生活に必要な手帳や費用等の理解ができるように、SHRで話をしたり、HR活動の中に組み込んだりすること。 ④スケジュール帳を確認する習慣も身につけさせ、見直しをもって行動できるようにすること。
	社会性の確立	自ら情報を得て考えて行動できるよう、指示や連絡は最小限にする。 帰りのSHRでは音声変換アプリを用いて文字情報を中心に行う。 行事に主体的に参加することにより、責任感や成就感を養う。	A A A	A		
	勤労観・職業観の育成	課題や目標を明確にして、就業体験を2回(専2は適宜)実施する。 進路個別面談や進路情報提供を適宜行う。 就業体験や企業見学を通して、働くことの意義を理解させる。	A B B	B		
寄(寮舎)務教部育	円滑な寄宿舎運営	学校との連携において、月行事提出前に情報共有を行い、円滑に運営できるようにする。 施設設備不具合の早期発見に努め、事務室と連携して安全で快適な環境づくりを目指す。	B B	B	B	①舎生の行事に関する負担等を考え、学校と行事に関する情報を共有しながら、行事の精選を行うこと。 ②舎生の課題に迅速に対応するために、舎生の心身状態や人間関係について学校と密に情報共有すること。 ③将来的な舎生数減少を見越して、舎生会の組織や活動内容について検討すること。 ④特に安全に関する箇所の修繕等を進めるとともに、非常時における職員の連絡体制を再検討すること。
	生活習慣の確立と社会性の育成	卒業後の社会自立を想定した取組を実施し、意識の向上を図る。 指導員全体の情報交換会を定期的に行い、共通理解の基に指導支援にあたる 行事等を通じ、相互理解と信頼のある主体的な舎生会活動につなげる。	B B B	B		
	安全教育の推進	避難マニュアルを基に訓練及び安全学習会を行い、生徒の危機管理意識を高める。 様々な状況設定の避難訓練を職員で行い、職員の安全管理能力を高める。	B B	B		

B	・本校出身の職員に講話をさせるなど、積極的に生徒の指導に活用していただきたい。 ・生徒の理解を深めるために、ワークショップ形式での学習を増やしていただきたい。
B	・職員の『全国手話検定試験』受験など、更なる手話力向上に取り組んでいただきたい。 ・多様化する生徒の実態に対応できるように、発達障がい等の専門性も高めていただきたい。 ・職員研修に関して同窓会ができることも考えたい。
B	・特になし。
B	・特になし。
B	・特になし。
B	・特になし。
B	・すべてBという自己評価にならないように、成果と課題を意識した評価項目を設定していただきたい。

評価項目以外のものに関する意見

・先生方が「困難感」や「不安」などを出し合い、支え合っているような学校の雰囲気作りをしていただきたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・適切な学習評価ができるように、評価に関する職員研修を実施する。
・生徒指導の項目に「学校と家庭との連携」に関する項目を設ける。
・筑波技術大学との連携協定を活用し、聴覚障がい教育等に関する教員の資質向上と学校のブランド力強化に繋げていく。
・本校卒業生を招聘する機会を更に増やし、より実効性の高いキャリア教育を推進する。
・スクールカウンセラーや医療機関等の外部専門家との連携を強化し、効果的な生徒指導に繋げていく。